

4 就 鳥 云 だ よ り

令和6年度千鷲会新春の集いに107名が参加

2025年2月28日19時ANAクラウンプラザホテル千歳にて

千鷲会新春の集いが開催された。

まず、佐藤会長がステージに上がり、久しぶりに参加者が100名を超えたことを伝えた。次に、今年は大阪で万国博覧会が開催されること、千歳では最先端半導体の量産を目指すラピダスが4月に稼働することに付いて述べた。そして、千歳空港開港100年に



するエピソードの提供を呼び掛けた。

続いて、田中第2航空団司令が登壇し、陸海空自衛隊を一元的に指揮監督するために、新たに設置される統合戦司令部について説明した。この司令部は2025年3月24日に設立され、陸・海・空自による統合作戦の指揮などについて、平素から統合作戦司令部に一本化することができると、統合運用の実効性が向上し、迅速な事態対応や意思決定を行うことが常統的に可能となる。

また、宇宙作戦群が団に昇格するなどの組織改編も伝えられた。さらに、今年中に隊舎の一部屋ごとにエアコンが設置され、個室化されること、営内者の外出が自由になり、課業開始に間に合えば良いことが知らされた。これには



会員達から「昨日今日入隊したばかりの新隊員も中堅どころの隊員も一緒か。これも時代の変化か」という声があちこちから聞こえた。少しざわついた中、異例ではあるが、最後に朝食相談役が登壇し、千歳空港開港100年記念事業実行委員会に千鷲会がなったのは、千歳空港と千歳飛行場(千歳基地)が同一であった時代の苦労を伝えるためだと、佐藤会長の談を補足して、最後に米国大統領に対して



記者が「ゼレンスキーは独裁者だ」と言ったことを覚えていたかと質問したところ、「そんなこと言ったかな、覚えていない」と答えたことを引用し、指導者の言葉の重さが変わったことを皮肉った。

この後、ANAクラウンプラザホテル千歳のセールズ担当の若杉氏が乾杯の発声のため登壇され、ユーモアあふれたご挨拶の後、待望の乾杯となった。



その後、イーグルホム(株)、ナイトサルーン・ヴィーナス及び、すなわく・来夢来人の皆様からご提供いただいたワイン等を景品として、ジャンケン大会が行われ最後に、森田副会長の中締め挨拶と乾杯が行われ、今回も恒例となつた集合写真撮影に移った。



だが、これが一筋縄ではいかない。「右向け右」の号令で、一斉に右を向いた元航空自衛官の集団とは、とても思えない。それは、冷かしと野次が飛び交い、シャッターを切るうにも、そのタイミングを与えない。これが、制服を脱いでも、いまだに気心知れた仲間である証なのだ。

以下は元写真員の主観だが、現役時代の私は、このように笑顔が弾け、声が聞こえるような記念写真撮影を行つた覚えがない。今、和気あいあいの中での記念撮影が出来るのが嬉しい。

千 鷲 会
広報部作成

千 鷲 会 新 春 の 集 い



2025年2月13日11時、千鷲会は千歳市役所本庁舎で、平成21年度から絶えずことなく続けているボランティア活動の一環として、千歳市奨学基金に5万円を寄付しました。この寄付は佐々木教育長が同席する中、

千歳市奨学基金に寄付



佐藤会長から横田市長へ手渡された。その後、市長と教育長から、体育系の部活動の指導者(特にバレーボール)が不足していること、人気のある部活動はサッカーや野球のような競技ではなく、少人数でもできる卓球やバドミントンであること、競技大会もトーナメント方式ではなく、試合数を多くするためにリーグ戦が増えている現状が説明された。

特別輸送機の見学を千歳基地に申請したところ、

2月26日にC-1輸送機が千歳基地へ最後に飛来するため、千歳基地から特別輸送機とC-1輸送機を合わせたの見学を提案され、24名の会員が参加した。



特別輸送機とC-1輸送機見学



司令、第2航空団司令、特別航空輸送隊司令、第2航空団司令、送航空隊司令も参加する対応に会員達は感激していた。また隊員食堂での体験喫食では、美味しさに驚いていた。

2024年12月12日14時、朝食相談役を始め、酒井・藤山・村田・渥美の5名の千鷲会会員は、千歳市役所本庁舎会議室にて「空港開港100年記念行事動画作成」に関わる座談会形式によるインタビュー取材を受けた。

空港開港100年記念行事動画作成インタビュー



冒頭で朝食相談役からの開港100年の起年月日に付いての擦り合わせが行われ、新千歳空港が運用開始されるまでの千歳飛行場(共用飛行場)の特殊性と、新空港運用開始後の大型機離発着場と、戦闘機の離発着場が、道路一本隔てて隣接している状況下での航空管制、飛行場管理、理や維持に付いてのインタビュー形式での座談を終えた。

例年より一月ほど早い2025年2月5日、令和6年度の冬季保命訓練が、女性パイロット特集の取材が入る中、気温氷点下1度、水温2度、終盤に雪が降る状況下でダイナックスアリーナ横の千歳川で行われた。

「浮舟は、単に乗り込むのではなく、浮舟を腕力、体力で、体の下へ引き込まなければ乗れない」と、OBパイロット達やOB救難員がOB整備員達に教えていた。

救命浮舟に乗り込めない

